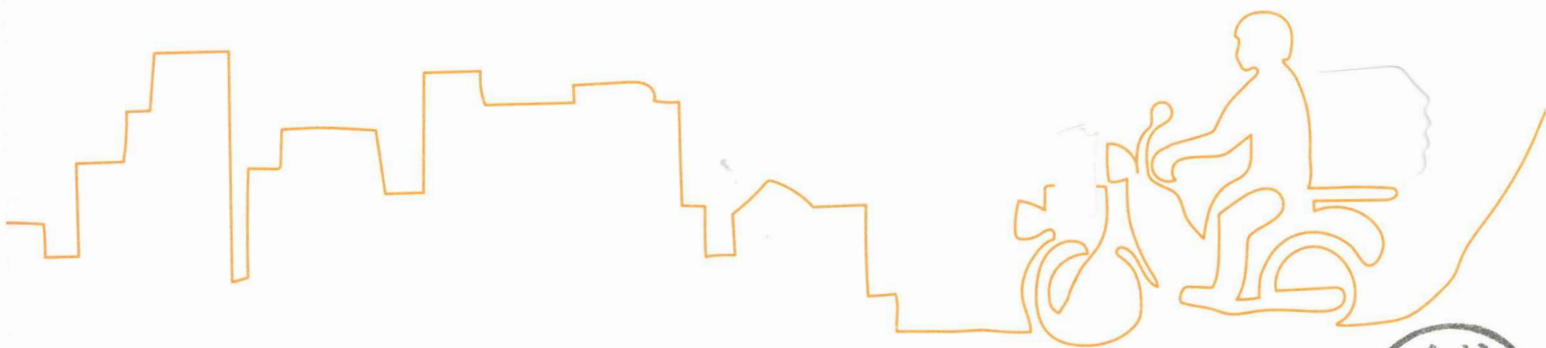


地 域 に つ な が る

高知新聞社



高知新聞社 ガイドブック



自由は土佐の山間より――自由民権の系譜を受け継ぎ、
 高知新聞は1904(明治37)年に創刊しました。
 100年を超す歴史の中で脈々と流れているのは、
 「自由闊達に論議し、是々非々の立場を堅持して県民とともに歩む」
 の精神です。
 高知新聞はジャーナリズムを屋台骨にして歴史を刻んできました。
 県民読者に感謝する気持ちを持ち続け、
 日々の新聞発行に取り組んでまいります。

目次 INDEX

代表ごあいさつ	3	結ぶ：全国屈指のシェア	10
新聞がポストに届くまで	4	つなぐ：暮らしに役立つ広告	12
歩み：高知新聞の沿革	6	知る：過去～最新 幅広い情報提供	13
NIE：教育に新聞を	8	催し：郷土に根付いた主催事業	14

県民読者と共に



代表取締役社長 宮田 速雄

創刊から100年を超える高知新聞の歴史は、先人たちの不屈の精神に支えられてきました。草創期は存亡を懸けてライバル紙としてのぎを削り、戦時下には厳しい言論統制、そして戦災による社屋焼失―。そんな難局の中でも連綿と新聞発行を絶やさず、幾多の苦難を乗り越えてきました。

ネット社会が進展した今、「新聞離れ」といわれたりもします。さまざまな情報がネット上にあふれていますが、そんな時代だからこそ、新聞の役割はますます大切になっているのではないのでしょうか。現場に根差した記者たちが、丹念にニュースを掘り起こし、さらに何人もの編集者が原稿をチェック。どんな情報も入念な吟味を加え、的確な記事にして読者に届けるのが新聞です。逆風が吹く時代にあっても「新聞回帰」は必ずあると信じ、全社員が一丸となって困難な課題に向き合っています。

私たちメディアも時代の変化に対応していかなければなりません。長い歴史の中で、ともすればマンネリズムに陥っていないか。時には大胆に変わっていくことも必要です。良き伝統は育んでいく一方、新たな視点、斬新な発想が求められています。

自由民権の系譜を受け継ぐ高知新聞には、自由闊達な気風が脈々と流れています。不偏・不党、厳正公平。県民の公器として、これからも県民読者と共に歩み続けてまいります。

自由民権の系譜を受け継ぐ高知新聞には、自由闊達な気風が脈々と流れています。不偏・不党、厳正公平。県民の公器として、これからも県民読者と共に歩み続けてまいります。

新聞がポストに届くまで

新聞はどのように作られているんだろう？



10:00 取材

取材



いろいろな人との出会いを通して、自分自身もとても勉強になるんだよ！

県内外の季節の風物詩やスポーツなどの楽しい話題のほか、事件、事故などさまざまな分野を取材します。決定的瞬間を伝えるため、活発に動き回ることが求められます。



読者の元へお届け



6:30 ご家庭

記事出稿



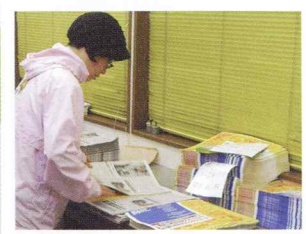
取材してきた内容を記事にします。だれが(Who)いつ(When)どこで(Where)何を(What)なぜ(Why)どのように(How)したのか、5W1Hを念頭に、正確に伝えるよう努力します。記者の書いた原稿は、デスクがチェックした上で新聞共有システムに送ります。

一番頭を悩ませるのは、いかに分かりやすく伝えるか、ということなんだ！

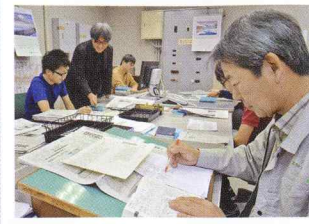
高知県には134の販売所、2300人の従業員がいるんだよ。



4:00 販売所



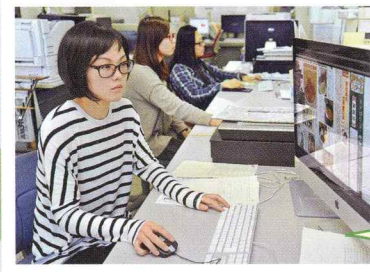
販売所では、届いた新聞に折り込み広告をはさんで配達します。



校閲

記事に言葉や漢字の間違い、読んだ人に嫌な思いをさせるような表現がないかチェックします。

衛生放送→衛星放送など漢字の間違いをチェックするんだ。

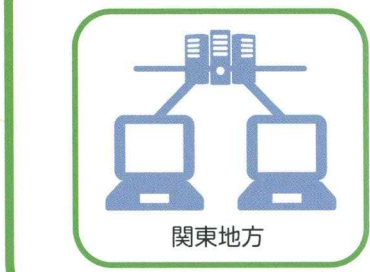


イラスト作成・画像処理

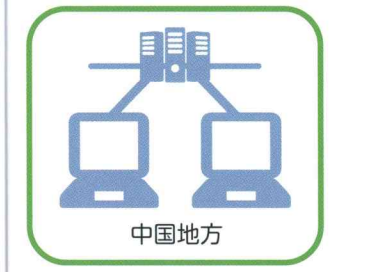
迫力ある紙面にするために、写真は欠かせません。記者が撮影した写真の大きさや色合いなどを調整し、紙面に映えるようにします。

記事をより分かりやすく伝えるために、イラストや図表などを作成して紙面を工夫するんだ！

新聞共有システム



関東地方



中国地方

新聞制作の工程を支えているシステム

データの取り込みから紙面の作成、印刷部門へのデータ送信までの新聞制作システムは、2015年10月から共同通信社の新聞共有システムを利用しています。関東、中国地方のデータセンターに主要機器を設置し、本社と専用通信

回線で結んでいます。新聞制作の工程を支えるシステムを本社外とし、地震などの広域災害発生時にも紙面制作を継続、皆様に情報をお伝えできるよう技術努力を重ねています。

23:00

紙面編集



編集記者はレイアウト専用のパソコンを使って作業しているんだ！

紙面レイアウト

新聞紙面をレイアウトします。そのためには記事の価値を判断する力が求められます。重要度によって紙面上の扱いや見出しのつけ方が変わってくるからです。重大ニュースは真夜中に起こるかもしれません。そのために午前2時まで対応できるようにしています。



通信社

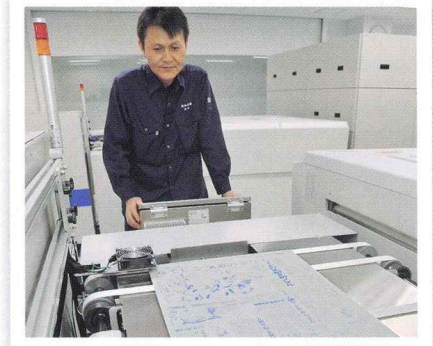


共同通信社や時事通信社などから海外や国内のニュースが送られてきます。これによって高知新聞は幅広く情報提供できるのです。

1:00

印刷

まほろばセンター



刷版出力

本場でつくられた紙面のレイアウトは専用回線でまほろばセンターに送られ、刷版という印刷の原版が作られます。本社から送信されたデータが版材に直接記録される仕組みを「ダイレクト製版(CTP)」といいます。

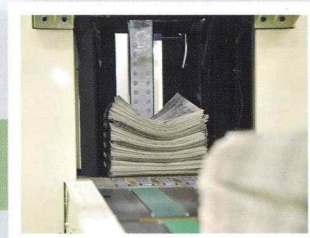


発送

刷り上がった新聞は、専用の機械がカウントして、販売所ごとに梱包します。そして、県内各地の販売所までトラックで運びます。



梱包



自動計数



印刷

タワー型輪転機は、用紙の表裏両面を一度に印刷でき、しかもカラー面と白黒面のような組み合わせも可能です。この最大40ページ(うちカラー16ページ)の印刷ができる輪転機が2セットあります。

歩み

創刊は明治37年、日露戦争の年 自由民権運動発祥の地に生まれる

1904 高知新聞創刊

1904(明治37)年9月1日に創刊された高知新聞の創刊号は全部で8ページでした。1面には、主筆・富田幸次郎の「発行の趣旨」が載っています。趣旨の冒頭には、「高知新聞生まる、何んがために生まれたるか、時代の要求に伴うて、我が県民と相携え、共に共に新天地を拓開せんとして呱呱の声を揚げたるなり」とあります。言論の自由や議会政治など民主主義の原型を活発に議論していた高知において、その時代の要請に応じて誕生したと高らかに宣言したわけです。さらに高知県民としっかり手を取り合って、共に新たな時代を開拓

していこうとも言っています。その後、両世界大戦の中、新聞紙法や治安維持法などの国家による言論統制にさらされながら、終戦の年1945(昭和20)年11月28日付紙面においては、「不偏不党、厳正公平、世論の中枢機関、県民の公器たらんとす」と社是(会社の方針)を発表、さらに、「平和日本の建設と日本民主主義の確立に全力を捧げんとす」とも宣言をしています。高知新聞は、現在もそのジャーナリズムの使命を胸に刻み、県民、市民の視点から権力や社会をチェックする役目を果たしています。



明治37年9月1日・本紙創刊号の第一面

2012 まほろば工場、落成

「高知新聞まほろばセンター」(南国市蛸が丘1丁目)は2012年9月1日から正式稼働しました。「まほろば」とは「優れた良い所」という意味の古語で、かつて土佐の国府があり、土佐日記の作者で平安時代の歌人・紀貫之ゆかりの地でもある南国市比江に近いことから、歴史的イメージを重ねて名付けました。

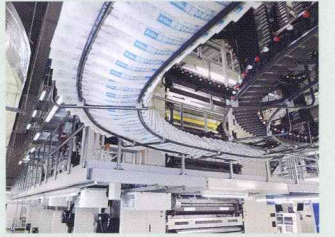
建物は地上3階建て鉄骨造り。延べ床面積は6451平方メートル。建築基準法の1・25倍の耐震構造とし、地盤が強固なオフィスパーク内の標高約48メートルの高台に建てることで、地震や津波などの「災害に強い工場」としました。

輪転機は、三菱重工印刷紙工機械製の4×1(フォーパイワン)機。従来機に比べ、小型軽量で、省エネタイプです。省スペース

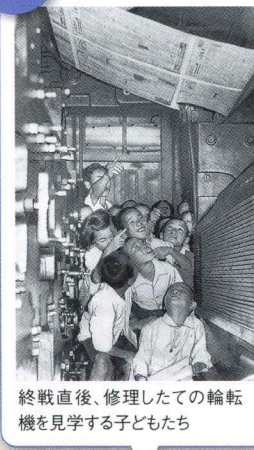


スに多くの用紙を保管できる「立体紙庫」や、用紙を輪転機まで自動で運ぶ無人搬送台車「AGV」などの装置も備えています。

1階の「高知新聞ふれあいミュージアム」では、百十余年に及ぶ高知新聞と県民との歴史を写真パネル展示で紹介。新聞に関する知識、読み方などをパズル形式で学んだり、タッチパネル機器を操作し、ゲームや新聞に関するクイズを楽しんだり…。見学に来た子どもたちが見て、触れて、学んで、「高知新聞を実感」できる施設です。



見学 1946年(昭和21年)



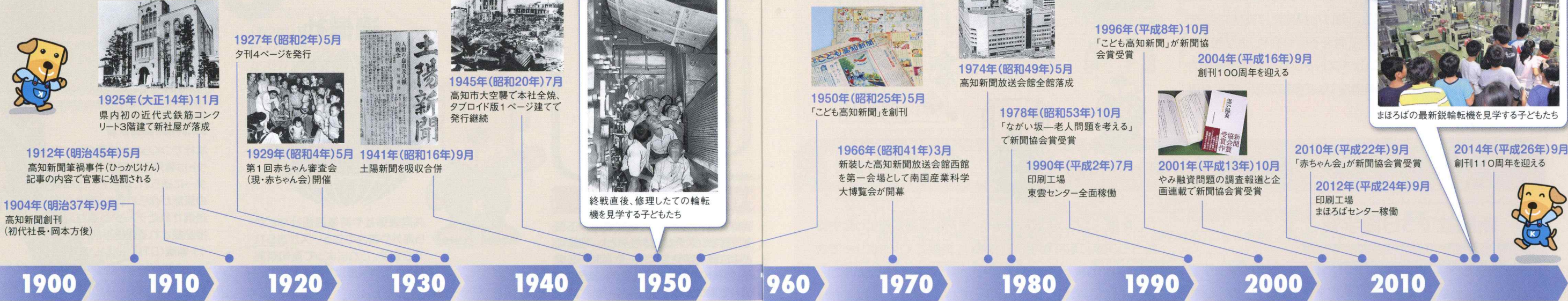
終戦直後、修理したての輪転機を見学する子どもたち

見学 2012年(平成24年)10月



まほろばの最新鋭輪転機を見学する子どもたち

高知新聞の出来事



明治 大正 昭和 平成

県内外の出来事



NIE：教育に新聞を

Newspaper in Education

学校から家庭、地域へ

NIE(エヌ・アイ・イー)は、「Newspaper in Education(教育に新聞を)」の略で、新聞を生きた学習材として教育に活用するために、教育界と新聞業界が協力して行う共同活動です。学習指導要領に、児童・生徒の言語活動充実のための手段として新聞活用が明記され、教科書にも掲載されるなど、教育

の中で新聞が果たす役割が注目されています。高知新聞社は、記事の読み方・書き方などについての「出前授業」や各種講座を開催する一方、中高生らが記者の仕事を経験する「記者体験」を行っています。NIEの輪は、学校から家庭、地域へと広がっています。



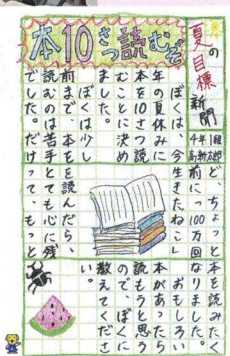
記者派遣・記事の活用：新聞の読み方、記事の書き方を学ぶ

多様なニーズに対応

地域や学校などに出向く「記者派遣」や「出前授業」などでは、記者の取材体験や新聞の読み方・作り方から、「記事のように結論(大切なこと)から書く逆三角形の文章の書き方」「新聞コラムのような起承転結のある文章を書く力」などの学習指導要領の狙いに沿ったものまで、多様なニーズに対応しています。小中高校生に向けた授業だけではなく、先生らと一緒に新聞活用について考える研修会や、大学生らと記事をテーマに話し合う「ニューストークカフェ」、地域の方を対象にした「はがき新聞講座」など多彩な取り組みを展開しています。



高知大で開催した「ニューストークカフェ」



活用が広がる「はがき新聞」



記者体験：取材、写真撮影、記事の執筆に挑戦

新聞社で3日間学習

記者体験は中学校や高校で行われている職場体験学習に対応。本社を訪れた生徒たちに新聞記者の仕事を経験していただきます。体験期間は原則3日間。まず記者の仕事や新聞ができるまでの工程を学んでもらった後、取材の準備に取り掛かります。事前に取材する相手へのインタビューの内容をみんなで考えたり、写真撮影の仕方を習った

りした後、いよいよ取材現場へ。最初は緊張気味だった生徒たちも次第に取材相手と打ち解け、笑顔でインタビューできるようになります。最後は新聞社に帰ってメモを見返しながら記事の作成。写真や見出しが入って組み上がった体験記念紙を手にして、「自分たちが聞いた話がこんな形になるなんて」「将来、記者になって新聞社で働きたい」といった声も。短期間ですが、生徒たちにとって貴重な社会体験の場となっているようです。



小社会ノート

本紙1面に掲載しているコラム「小社会」の書き写しノートを作成し、県内の書店や高知新聞販売所で取り扱っています。視写は高齢の方の脳トレにも最適。児童・生徒の皆さんだけではなく、幅広い年齢層の方に活用していただければと思います。

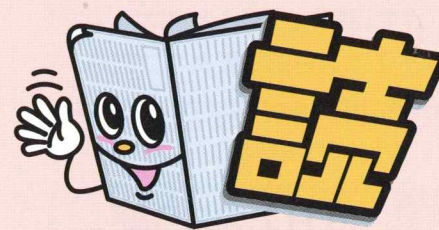
お問い合わせ先：NIE 推進部

電話 088-825-4081

メール nie1378@kochinews.co.jp

読もっか こども高知新聞 土曜日～木曜日

こども高知新聞は1950(昭和25)年5月5日に誕生。土曜日から木曜日までの毎日掲載しています。小学生が読みたくなる記事を掲載するのはもちろん、小学生の「こども記者」が書く「こども記者だより」も毎日載せ、「読む力」「書く力」の両方を育てたいと考えています。



「読もっか」のキャラクター
よむニャア



毎回、科目を設定し、ビジュアルな紙面で、授業や学校や生活で役立つテーマを取り上げています。

読もっかスクール



毎年3000人以上の小学生がこども記者に登録し、記事やイラスト、4こままんがを投稿しています。

こども記者だより



県内在住の研究者が、動物や昆虫の生態を解説する人気コーナーです。

続・いきものがかりより

読もっか 週刊中学生 金曜日

2012年4月から始まった中学生向けのページです。中学生が「主役」の記事を載せ、将来の進路選択に役立つ情報も。法律解説など、新聞から「社会を知る」ことも重視しています。



トップ記事

特色ある取り組みで頑張っている、県内の中学校や生徒を取り上げています。



GO!GO!ハイスクール

高校入試の参考にしてほしいと考え、県内の高校を1校ずつ紹介しています。



学校特派員だより

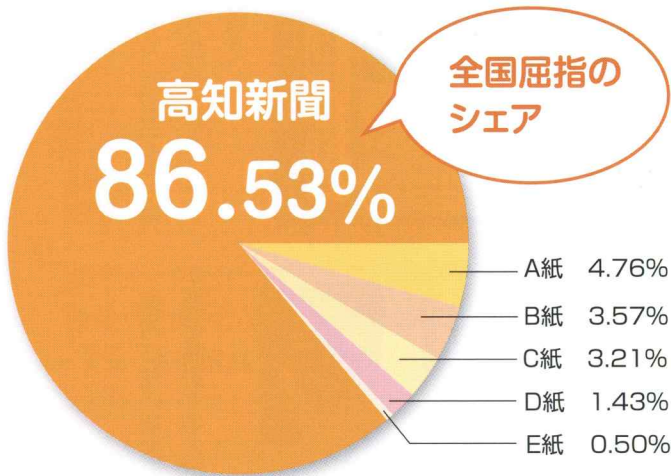
中学生の投稿コーナー。学校の話などを、中学生らしい思いを込めて発信しています。

結ぶ

高知新聞は、多くの県民に読まれ、親しまれています

皆さまの厚い信頼を得て、全国屈指の高いシェアを誇ります。

高知新聞のシェア 2015年12月現在



高知新聞の発行部数

朝刊部数	181,959部
夕刊部数	114,943部

2015年12月現在の県内ABC部数



高知新聞の販売所

県内各地に134の販売所、約2,300人の従業員が読者の皆さまに配達しています。



地域貢献

- 毎年12月に販売所の女性所長や所長夫人で組織する「なでしこ会」が、高知市でチャリティバザーを開催し、売り上げを「高知新聞厚生文化事業団」に寄付しています。1988年からのこの長い取り組みが評価され、2007年に日本新聞協会の「地域貢献大賞」の初代大賞に輝きました。
- また、高齢者や子どもの安全見守り活動にも取り組んでいます。



県民とつながる にゅーすけ

高知新聞社が創刊100年を迎えた2004年、マスコットキャラクター「にゅーすけ」が誕生しました。土佐闘犬をモチーフに、ペン先の輪郭をした姿はすっかりおなじみになり、高知新聞の顔として親しまれています。

紙面では毎週日曜日にニュースをおさらいする特集「教えて!にゅーすけ」に登場。タイムリーな話題を解説するとともに、4コマ漫画「にゅーすけっち」ではほのぼのとした姿を見せています。

2015年からはにゅーすけの活躍の場がさらに増えました。紙面ではにゅーすけが県内各地を訪ねて、地域の人と触れ合う特集を毎月掲載。子どもたちと遊んだり、伝統文化を紹介しています。デジタル空間ではフェイスブック、ツイッター、ブログをリニューアル。フェイスブックとツイッターは「高知新聞にゅーすけ」のタイトルで、記事の紹介や防災情報などを発信。ブログ「にゅーすけ日記」ではにゅーすけが県内各地に出向いた際のコぼれ話を掲載しています。

このほか、ゆるキャラが集まるお祭りや子育てイベントにも積極的に参加。幅広い世代の方々につながるキャラクターとして活動しています。



新聞バッグ教室なども展開

県民とつながり、明るく楽しい高知にしたい——。高知新聞社は主催事業だけでなく県内各地で開かれるイベントにも参加しています。イベントでは新聞社の財産を生かしたメニューを用意。近年注目を集めている新聞バッグ作りや、新聞の切り抜きを楽しむスクラップブック作り教室を開いています。

新聞バッグ作り教室ではインストラクターが折り方を伝授。新聞紙ならではの味わいのあるバッグを作っていたり、新聞の新たな楽しみ方を広げてもらっています。スクラップブック作りでは記事を読み、切り抜き、スクラップ帳に貼ることを通じて、ニュースに親しんでもらっています。





高知で生活する人たちに合わせた 広告情報をプロデュース

お店のオープンやイベント、セール情報、新商品発売、人事募集、ご不幸の案内など、高知で生活に役立つさまざまな広告情報を、朝刊や夕刊などを通じて読者の皆さまにお届けする活動をしています。イベントと紙面の連動による高知新聞社ならではの企画・運営も数多く行っています。



高新住宅展示場「ライム」



住宅メーカー9社のモデルハウスが並ぶ住宅展示場の運営を行っています。定期的に行うイベントをはじめ、相談会など住まいに関する情報を総合的に発信しています。



高知就職ナビ



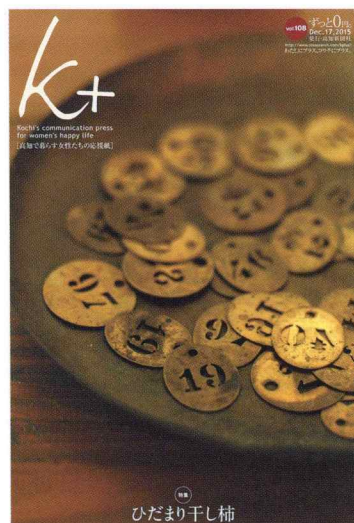
説明会場風景



高知県内の企業・団体の就職情報を提供する「高知就職ナビ」。朝刊、別刷りのタブロイド紙、ガイドブックで情報を発信しながら、大阪、高知県内で開催する合同会社説明会「高知就職ガイダンス」によって、高知で就職を希望する学生を支援いたします。

フリーペーパー 「Kプラス」「ミリカ」

多彩な特集記事で高知の魅力を再発見する「Kプラス」と、女性と家族を中心に暮らしを楽しむがテーマの「ミリカ」をそれぞれ月1回発行しています。



以前掲載した記事・写真から 最新情報まで幅広く提供

Webサイト・携帯サイト

高知新聞社は、パソコンやタブレットで閲覧できる「高知新聞Webサイト」と、有料の携帯サイト「高知新聞とさあち」を展開しています。

新聞記事をコンパクトにまとめて、どちらも毎日更新しています。

「とさあち」には、高校野球県大会の試合速報など独自の企画も掲載しています。



- 高知新聞Webサイト <http://www.kochinews.co.jp/>
- 高知新聞携帯サイトとさあち <http://mobile.kochinews.co.jp/>

高知新聞データサービス

●高新記事の検索、コピー

お探しの記事を有料でコピーします(事件・事故、裁判記事などはお出しできません)。検索、閲覧のみは無料です。

●市町村史、団体・学校史などの資料抽出

市町村史や各団体などで記念誌を作る際に関連記事・写真をデータベースから抽出します。

●思い出の日の高知新聞

誕生日など、思い出の日の高知新聞をラミネート加工して販売します。

●高新掲載の写真をプリント

高知新聞社が撮影し紙面に掲載されたもので、ご本人、ご家族が写っている写真や風景写真を販売します。

●永久保存に「メモリー高新」

紙面掲載の写真や記事を金属板かアクリル板に焼き付けて生涯の記念として残せます。



写真左:
メモリー高新
写真右:
思い出の日の
高知新聞



高知新聞社が取材した記事、写真に限りません。また、いずれのサービスも有料となります。

お申し込み、お問い合わせは

高知新聞社 メディア開発部 TEL088-825-4333 FAX088-873-3267 午前9時～午後5時(土、日、祝日を除く)

読者テレホン

高知新聞社では読者テレホンを設置しており、読者とのコミュニケーションを図っています。寄せられたお問い合わせ、ご意見は社内、グループ企業で参考にさせていただきます、業務に生かしています。

TEL088-825-4040

午前10時～午後5時まで(土、日、祝日を除く)

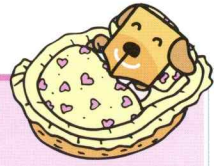


催し

高知新聞社の主催事業

高知新聞社は県民の文化、芸術、スポーツなどの向上発展にお役に立てればと、さまざまな事業を企画しています。みなさまの参加をお待ちしています。

赤ちゃん会 4月



天使の笑顔をいつまでも。1929(昭和4)年に初めて開催し、健診や育児相談を通して赤ちゃんの健やかな成長を見守り続けています。これまでに参加した赤ちゃんは12万人近く、運営には小児科医師や歯科医師、看護師、助産師、保健師、歯科衛生士ら約300人が携っています。高知会場に加え、2004(平成16)年から幡多会場でも開催しています。郷土の命を見守り続けてきた「赤ちゃん会」の実践は2010(平成22)年度の新聞協会賞「経営・業務部門」を受賞しました。



「赤ちゃん会」参加の記念に、赤ちゃんのご家族の写真が掲載されたミニ新聞を発行、販売しています。健やかな成長の足跡として好評です。

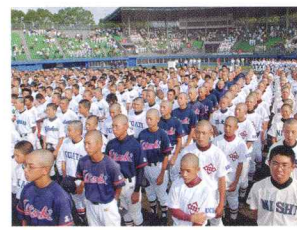
4月

赤ちゃん会(高知・幡多会場)
高知就職ガイダンス



8月

親子トンカチ教室
よさこい祭り
高知県中学野球選手権大会
天皇杯全日本サッカー選手権県予選決勝



5月

高知職場早起き軟式野球開会式
高知住宅展GWフェア
夏休み学習旅行招待1次募集
土佐本因坊戦



9月

金婚夫婦祝福式典
高知住宅展バースデーフェア
南海王将戦
大学・短大・専門学校進学相談会



6月

黒潮マンガ大賞募集
夏休み学習旅行招待2次制作
大学・短大・専門学校進学相談会
高校生のための文化講演会
第1回漢字能力検定



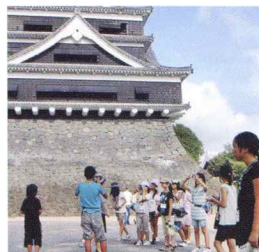
10月

高知県美術展覧会(県展)
高知県中学サッカー選手権大会
移動高知新聞
介護セミナー
第2回漢字能力検定
四国アマ将棋選手権



7月

新聞感想文コンクール募集
夏休み学習旅行
全日本アマ将棋名人戦県予選決勝
みなとまつり写生会
高知県ペアゴルフ選手権



11月

高知音楽コンクール
高知中学駅伝
四国四県対抗囲碁大会
高知ロードレース



出版

高知県美術展覧会(県展)

10月

赤ちゃん会とともに、代表的な事業である高知県美術展覧会(県展)は1947(昭和22)年に始まりました。以来、県民とともに歴史を刻み、高知県最大の美術展として親しまれ、美術文化の発展に貢献しています。



毎年、洋画や書道、写真など多くの作品が出品され、来場者も「アートの日」を楽しんでいます。



高知新聞社は、終戦直後の1946(昭和21)年7月に、県内外の文化人、学識者を動員した文化総合雑誌「月刊高知」を創刊、発行(1950年9月まで)して以来、政治、経済、社会、歴史、自然科学、文化芸術などあらゆるジャンルの出版物を刊行してきました。日本新聞協会賞を受けた「ながい坂」「黒い陽炎(かげろう)」、アップジョン医学記事賞特別賞の「生命(いのち)は守られているか」、農業ジャーナリスト賞の「山よ」、日本ジャーナリスト会議賞の「流転」など内外で高評価を得た長期新聞連載の出版、そして高知県子ども詩集「やまもも」、新聞掲載4コマ漫画「きんこん土佐日記」は人気シリーズです。四国の動植物や自然、観光のガイド・教養本、「龍馬のすべて」など歴史・学術的文献も刊行しています。

12月

クリスマス子ども大会
映画ベストテン



1月

高知住宅展新春フェア
高知駅伝



2月

高知スポーツ賞表彰式
高知龍馬マラソン
ご入学おめでとう大会
第3回漢字能力検定



3月

子ども県展
全国高校相撲選抜大会
高知県女流展
高知就職ガイダンス



イベントは、年度によって名称や開催時期が変わる場合があります。詳しくは高知新聞企業・事業企画部(088-825-4328) ※平日9:30~17:30までお問い合わせ下さい。

文化教室

1974(昭和49)年に開講した高知文化教室は、本校、いの、高岡、サンピアシリーズの4会場のほか外部・提携教室を合わせて約600講座に年間のべ11,000人の受講生が通っています。開講当初から続く華道、茶道、書道、絵画のほか、音楽講座や健康講座、また英会話スクール、ダンススタジオなどの外部教室とも提携し、さまざまなニーズにお応えできる講座を開講しています。受講の目的は、健康増進のために、趣味を広げるために、スキルアップのために、仲間を作るためにと、さまざまですが、それぞれに「楽しく」受講されています。

●申込先
高知文化教室
〒780-8666 高知市本町3丁目3-39 高知放送南館4階
TEL088-825-4322
(日曜・祝日を除く
9:30~18:15)





高知新聞社

本社

高知市本町3丁目2-15
TEL088-822-2111

まほろばセンター

南国市蛸が丘1丁目2-3
TEL088-862-4811



東京支社

東京都千代田区内幸町2丁目2-1
日本プレスセンタービル
TEL03-3506-7281

高松支社

高松市番町1丁目6-1
住友生命高松ビル
TEL087-821-7040

大阪支社

大阪市北区堂島2丁目1-31
京阪堂島ビル
TEL06-6342-9511

幡多支社

四万十市不破上町1907-48
TEL0880-34-3151

高知新聞関連企業

株式会社高知放送

高知新聞急送株式会社

株式会社高知広告センター

株式会社RKCプロダクション

株式会社高知新聞企業

桂ハイヤー株式会社

株式会社高知販売オリコミ社

高知新聞社会福祉事業団

株式会社高知新聞総合印刷

高知新聞厚生文化事業団

高知新聞のご購読は、最寄りの高知新聞販売所
または高知新聞社で承っております。


高知新聞社サイト・高知新聞購読のご案内ページ
<http://www.kochinews.co.jp/koudoku/>

携帯電話・スマートフォン用QRコード



お電話での購読お申し込みお問い合わせは

こうしん いいなこうしん

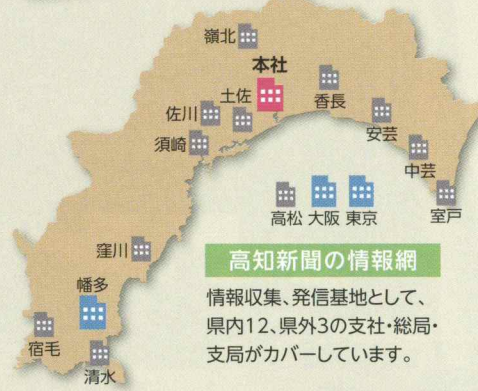
 **0120-54-1754**

高知新聞社の組織

入社を目指されるみなさんへ、
様々な局の役割や活動をご紹介します

編集局 報道センター

政治や経済、事件・事故、教育、スポーツ、文芸、福祉、医療など県内のさまざまな分野の取材を担当。記者はデイリーで出稿する記事以外にも、連載企画を通じて課題や問題点を探っていきます。地域報道部は県内12の支社・総局・支局を総括。地域に密着した取材活動を展開しています。最近では沖縄密着した取材活動を展開しています。東海の米軍基地問題など地方紙同士の連携も強化。東海・東南海・南海の三連動地震に備えて、防災関連の情報や行政の動きも手厚く報道しています。

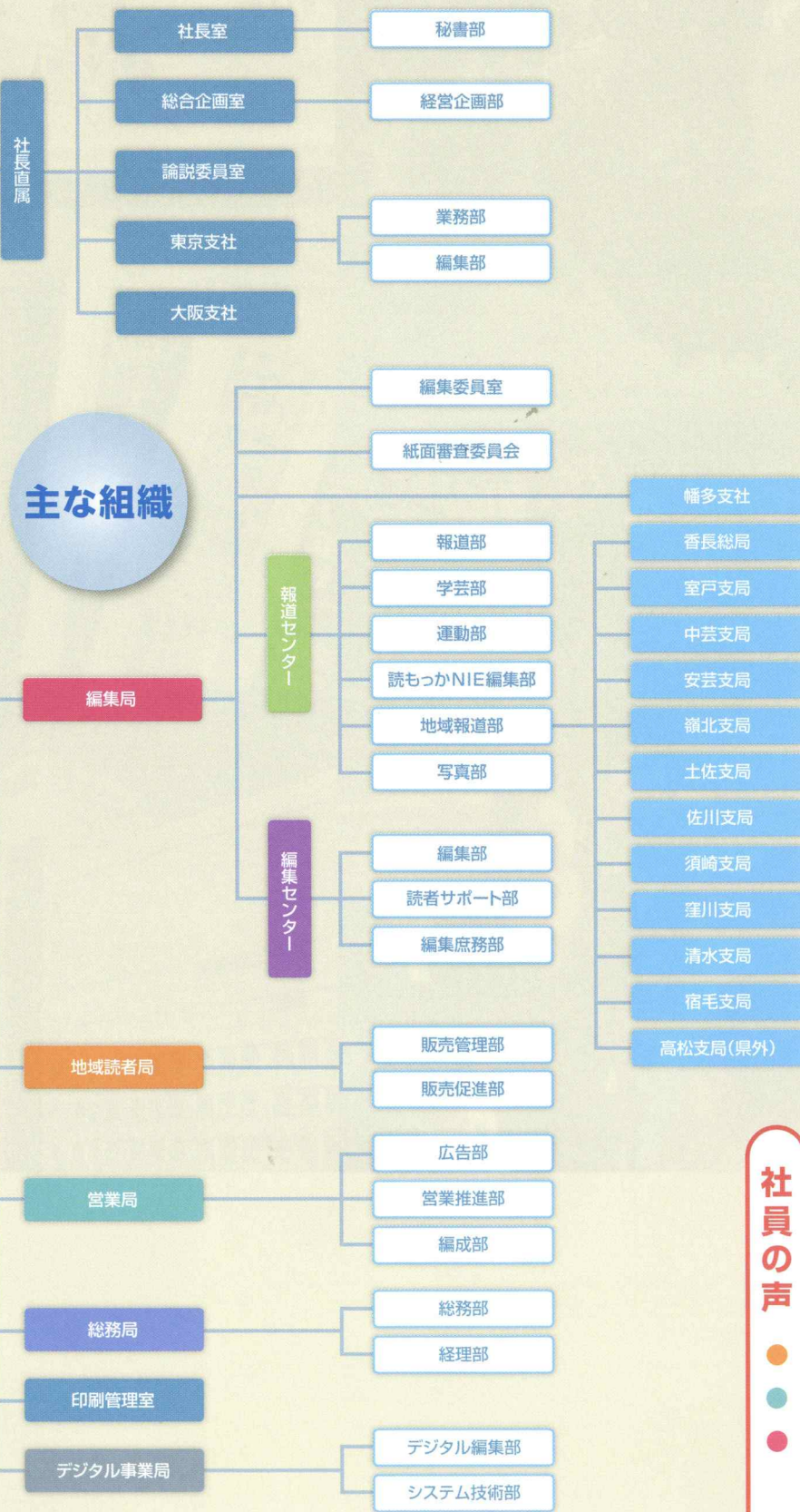


編集局 編集センター

一言で言うなら、新聞紙面の管理です。本紙の基本ページ数は24。これを最小として、日によってページを増やします。スポーツのイベントが多い日や、政治が大きく動くなどして特集面をつくるとページは増え、また、営業局からのリクエストに応じてページだてを変えます。カラーページをどう割り振るか、出稿部門の、あるいは広告サイドとの調整を図るのも重要な仕事。紙面編集、校閲については質はもちろんのこと、工程時間も含めて作業の責任を負っています。

デジタル事業局

二つの部からなり、新聞製作から広告、販売まで社全体のコンピューターシステムを構築し維持管理するシステム技術部、毎日の紙面をデータベース化して残したり、ホームページを随時更新して新しいニュースを発信したりするデジタル編集部があります。2018年3月にリリースした電子版「高知新聞Plus」の開発・運営も担っています。緑の下の力持ちで地味ながら、業務を支えている部署です。



地域読者局

地域読者局は2015年春に新設されました。販売管理部と販売促進部の2つの部から構成。読者へ確実に紙面を届けるとともに、より多くの方々に新聞を読んでもらうよう営業活動に励む県内130の販売所をサポートしています。より多くの県民とつながるためにPR戦略や事業も立案。マスコットキャラクターにゆーすけの活用も担当しています。

営業局

イベントやセール情報、オープン、新商品発売、人事募集、ご不幸の案内など、高知で生活に必要な・有益・役立つさまざまな広告情報を、朝刊や夕刊を通じて消費者に伝える活動を経済情勢をはじめ、高知県内の消費者のニーズや動きにまなで、アンテナを張ることも大切です。広告営業はもちろん、メディアプランニング、イベントプロデュースなどを行う、広告主にとって「縁の下の力持ち」のような役割です。高知の女性を応援する「ケープラス」と、読者と共に作り上げる「ミリカ」のFM)、就職情報サービス「高知就職ナビ」の運営も重要な業務です。

総務局

総務局には総務部と経理部があり、会社のヒト、モノ、カネの管理を担当しています。机の前での事務作業ばかりというイメージもありますが、従業員や関連会社と常日頃から接し、取引先との交渉、弁護士や税理士など専門家との打ち合わせといった対人折衝の場面も多い部門です。

社員の声

政治経済から事件事故、教育、災害、地域のイベントまで、社会で起こるあらゆる事象を扱う“何でも屋”です。

「社会は呼吸している」とは上司の言葉です。記者の仕事は、社会の息づかいを敏感に感じ取り、時に喜びや悔しさを分かち合い、時に支えになれるように物事を伝えること。特に読者との距離が近い地方紙は、地域の視点に寄り添う姿勢が大切だと思います。

地域を元気にしようという取り組み子どもたちの成長や、よさこい祭りにかける踊り子の情熱…。懸命に生きる人々が持つ物語はとても魅力的で、日々取材先で元気をもらいます。

つらいこともありますが、「書いてくれてありがとう」「面白かったよ」という読者の声や、誰かに伝えたいと思う心震える瞬間に出会うと、この仕事をしていて良かったと感じます。これからも、少しでも地域を元気にできる記事を届けていきたいと思っています。



記者職

佐川支局

森田 千尋

友人から、「高知新聞社の販売部門ってどんな仕事？」と聞かれることがよくあります。私たち販売促進部員の仕事は、高知県内に130店舗ある高知新聞販売所をサポートしていくことが主な仕事です。

販売所長と対話を重ね、従業員の方が安心して働ける労働環境を整えることや、多くの方に高知新聞の読者になってもらえるような営業計画、ワークショップの企画と一緒に考え、取り組んでいます。また、新聞社の各部署の中でも読者の方と身近な存在にすることができ部署で、お客さんが求めているものは何か、地元メディアとして何が出来るのかを日々模索しています。

東西に長い地形の高知県で様々な場所に出向き、日々たくさんの方に出会います。その地域の方々から必要とされる、素敵な「販売所」を創ることが販売促進部の仕事です。

新聞広告やイベント事業などに携わる部署で、朝刊の「お誕生おめでとう」、夕刊の「ユウモク」を中心に担当しています。「新聞広告」と一言で言っても、実はいろいろな種類や企画があるんですが、入社当初は何も分かりませんでした。担当企画以外で、先輩方の持つ様々な企画に首を突っ込ませてもらいながら、徐々に知識やノウハウを身に付けていきました。

今の職場は、信頼できる上司と頼れる先輩に囲まれた環境で、メリハリもありとても働きやすいと感じています。

私の思う一番の使命は、読者に喜んでもらうこと。そしてクライアントにも満足してもらうことです。広告掲載後にクライアントのもとへ行くと、「お客さんがたくさん来た、出してよかった!」と言ってもらえることがあります。自分のやってきた仕事に達成感とやりがいを感じる瞬間です。これからも、広告業界で働く人間として、勉強・経験を積み重ねていきたいです。

県内12カ所にある支社・総局・支局の記者は、管内の行政や事件事故、教育、スポーツなどあらゆるニュースを日々取材します。

私は高知県西部の四万十市にある幅多支社に勤務していますが、高知市の本社勤めと比べて読者との距離の近さが大きな特徴です。

「なかなかいい記事やったね」と褒められることもあれば、「こういう視点でも書いてほしかった」と、しばしば指摘も受けます。読者の反応を直接得られるのが醍醐味です。

地域に住み、住民と同じ視点で取材する支社や支局の仕事は記者としての原点があるように思います。

災害時の犠牲者ゼロを目指して奮闘する地区長、大好きな音楽を続けるため吹奏楽同好会を立ち上げた高校生、四万十川の環境保全に尽力する川漁師…。さまざまな人の活動や思いを丹念に取材し、読者に伝える。

決して楽な仕事ではありませんが、高知新聞の記者でないと味わえないやりがいがあると感じています。



営業職

地域読者局販売促進部

政岡 隆志



営業職

営業局営業推進部

中西 浩太



記者職

幅多支社

山崎 友裕

社員の声は、ホームページ(<http://www.kochinews.co.jp>)内(企業情報)→(社員紹介)ページでも詳しく紹介しています。

高知新聞社 社員紹介 検索

採用Q&A

会社概要について

Q 地方紙として最も大切にしていることは何ですか？

A 高知県唯一の地方紙として、地域に暮らす県民の皆さまの視点に立ち、その信頼に応えるべく、時には権力と対峙しながらも、常に真実を追い求めるという姿勢です。その根底には「記者が知り得た情報は、記者のもので新聞社のものでもない。読者である県民のものだ」という考えがあります。

Q ネット全盛時代の新聞社についての考えを教えてください

A さまざまな情報がネット上にあふれていますが、そんな時代だからこそ、新聞の役割はますます大切になってきます。現場に根差す記者たちが、丹念にニュースを掘り起こし、さらに何人もの編集者が原稿をチェックします。どんな情報も入念な吟味を加え、的確な記事にして読者に伝えるのが新聞です。ニュースの表面だけではなく、なぜ起きたのか、背景には何があるのか、識者や関係者はどう考えているのかなど、一つの出来事からさまざまな思考をもたらすことができるのは新聞ならではのものであり、この役割が変わることはないと考えています。

職種・配属について

Q 入社後の配属先について教えてください

A 「編集記者」は編集局報道部への配属が多くなっています。その後何年か経験を積んでいただく中で、本人の関心、得意分野、適性を見て、他の外勤取材部門や内勤部門、支社局などへ異動になることが多いです。「営業・総務等」では地域読者局、営業局、総務局などに配属になります。中には一つの部署に長く在籍することや、違う局への異動や、「編集記者」「営業・総務等」というくくりを超えて異動する場合もあります。若い間にさまざまな部門を経験することは、幅広い視野と専門性を身につけ、キャリアアップにつながると思っています。

会社概要

会社名 株式会社 高知新聞社
所在地 〒780-8572 高知市本町3丁目2番15号
代表者 代表取締役社長 宮田 速雄
資本金 9,800万円
業績 営業収入 102億円(2017年3月期)
業務内容 日刊新聞発行
創刊日 1904年(明治37年)9月1日
発行部数 朝刊171,601部 夕刊108,839部(2017年11月)
従業員数 301人(2018年1月)

Q 入社後の転勤について教えてください

A 編集記者の場合は「支社、総局、支局」への転勤があります。県内には幡多支社および1つの総局、10の支局、県外には1つの支局があり、多くの記者が一度は支社局勤務を経験します。支社局記者はその地域の警察、行政、スポーツ、催しなどあらゆる分野が取材対象となります。一方、県外には東京、大阪に支社、高松に支局があり、特に高知県に深い出来事、県出身者の動向、経済関係の取材にあたっています。営業部門に配属となった場合は、東京支社へ異動の可能性ががあります。

応募、試験について

Q 応募の際、出身学部・学科や年齢で制限はありますか？

A 出身学部・学科の制限はありません。もちろん理系出身の記者も在籍しています。年齢制限については、大学および大学院在学中の方についてはありません。既卒の方は、募集要項の応募資格の欄をご確認ください。

Q 受験対策を教えてください

A 筆記試験全般でいえば、一般的な問題集にあたる方法や、論文を実際に書いてみるといった方法があるでしょう。一般常識については出題範囲が広いので、日頃からいろいろな分野に関心を持ち、情報に触れる時間を持つことが重要になります。膨大な情報から、効率的かつバランス良く重要なものを選択・収集するには、やはり「新聞」は欠かせません。これは就職活動全般においても言えることであり、社会人としての基礎スキルにもなると考えていただければと思います。面接試験については、「ありのままの自分」をアピールしていただきたいと考えていますので、自然体でリラックスして臨んでください。

Q 必要な資格はありますか？

A 資格の有無が採用に影響することはありません。ただ、運転免許については、編集記者はもちろん、営業部門に配属された場合も、入社後すぐに必要となりますので、入社までに取得し、運転に習熟してもらいようお願しています。

Q 求める人材は？

A 記者に求められるということ而言うと、あくなき好奇心であり、正義感であり、柔軟な感性であり、バランス感覚であり、それらすべてを支える健全な心身を持つ人でしょうか。また、情報はインターネットで流れるものではなく、生身の人間が発するものです。「人間」が好きでなければ務まりません。編集職場、営業職場にかかわらず、何より人と話をする、コミュニケーション能力が最も大事となります。

職場について

Q 職場はどのような雰囲気ですか？

A 社風は自由闊達、日ごろから立場や肩書を超えて意思疎通を図ることのできる職場です。社員1人1人が個性でありながらも、チームプレーの中で皆がイキイキと仕事をしています。仕事に「やりがい」と「誇り」そして「何にもかえがたい仲間」を持って働くことができる「ヒト重視」の会社だと自負しております。

Q 女性は出産後、育児をしながら働き続けることができますか？

A 育児休業法の施行(平成4年)以降、出産した女性社員全員が育児休業を取得し、すべて職場復帰しています。復帰後は育児のための勤務時間短縮制度などを活用することができます。また、職場内でもみんなでサポートしていきますので、安心して働くことができます。

研修について

Q 入社後の教育・研修制度について教えてください

A 入社直後に約10日間、会社業務全般についての講習、グループワークなどの集中研修があります。入社半年後には同期そろって県内支局を巡り、先輩社員である支局長から各地域の情勢などを学びます。入社後の実務については、上司や先輩から日々の仕事を通じて身につけていくOJTが主となります。また、若手、中堅社員を対象に、社内研修が予定されています。これらとは別に業務に関わる外部講座参加などの個別研修もあります。

本社	TEL088-822-2111	嶺北支局	TEL0887-76-2432
まほろばセンター	TEL088-862-4811	土佐支局	TEL088-852-0158
東京支社	TEL03-3506-7281	佐川支局	TEL0889-22-0005
大阪支社	TEL06-6342-9511	須崎支局	TEL0889-42-2220
幡多支社	TEL0880-34-3151	窪川支局	TEL0880-22-0101
香長総局	TEL0887-56-0500	清水支局	TEL0880-82-0113
室戸支局	TEL0887-22-0054	宿毛支局	TEL0880-63-2525
中芸支局	TEL0887-38-4800	高松支局(県外)	TEL087-821-7040
安芸支局	TEL0887-35-2045		